

# Acompañamiento del baile

片桐勝彦のバイレフラメンコ

texto por Katsubiko Katagiri

最終回

## VOL.28 Taranto

～はじめに～ 今まで3拍子系と2拍子系に分けて曲種の説明をしてきましたが、今回はそのどちらの要素も兼ね備えたタラントを取り上げます。

### ◆ カンテス・デ・レバンテ ◆

レバンテ (Levante) とは levar 「日が昇る」 から派生して出来た言葉で、セビージャやカディスなどから見て東に位置する地方を指します。大きい意味ではスペイン東部の都市バレンシアなども指しますが、フラメンコで言うレバンテはアルメリア県などのアンダルシア州東部や、そのさらに東に位置するムルシア州などスペイン南東部に限定して使われます。

カンテス・デ・レバンテとは文字通りレバンテ地方のカンテ。アルメリアやムルシアで生まれた歌の総称です。鉄や鉛や銅などの有数な鉱山地帯を有するレバンテ地方には、19世紀に入ってすぐにアンダルシア各地からたくさんの労働者が移り住み、土着の民謡(ファンダンゴ)などと影響し合いながらカンテス・デ・レバンテが生まれました。その代表的なものとして、タランタ、タラント、ミネーラ、カルタヘネーラ、ムルシアーナ、レバンティカなどが挙げられます。

### コラム

アンダルシアというと、乾いた大地にオリーブ畑と白い家並みを思い浮かべる人が多いと思いますが、レバンテ地方はそのイメージとはかけ離れています。2015年にカンテ・デ・ラス・ミナスの伴奏でムルシア州のラ・ウニオンを訪れた際、その湿気の多さとミカンやブドウの木々、そして褐色の建物に驚かされました。また、独特の衣服をまとったモーロ人がたくさん住んでいることも特徴と言えます。



ラ・ウニオンの町の中心にある1907年築の市場を現在は劇場に変えて使っています。

### ◆ 成立過程 ◆

カンテス・デ・レバンテの起源はモーロ人の統治時代まで遡ることもできますが、現在に近いスタイルは本格的な鉱山開発が進められる19世紀になってから、ムルシア州の鉱山町ラ・ウニオンや港町カルタヘーナなどで形作られました。その後、19世紀半ば頃には西のハエンやグラナダ、北のアリカントまで広がっていきました。

カンテス・デ・レバンテの歌を広めた第一人者はロホ・エル・アルパルガテロ (Rojo el Alpagatero 1847-1906) です。自身の実家で作られたワラジを売るためにアンダルシア各地を歩き周りながら、多くのカンタオールたちと接し、後にはラ・ウニオンでカフェ・カンタンテを開いてアントニオ・チャコン (Antonio Chacón 1869-1929) を招いたり、カンテス・デ・レバンテの創唱・発展に尽くしました。



### 【著者プロフィール】

日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリクマルカ等のグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始める。'98年から長期渡西。マドリードのタブラオ「カサ・パタス」やセビージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街で」出演。主な参加CD・DVD：風回廊(渡辺えり)、天国を見た男(沢田研二)、Boy(coba)他。Estudio ROMERO主宰。

また、彼の弟子には有名なコンセプション・ペニャランダ "ラ・カルタヘネーラ"(Concepción Peñaranda "La Cartagenera" 1850-?)がいます。

### ◆ 音楽的特徴 ◆

カンテス・デ・レバンテの曲種は、その旋律に多用されるモーロやユダヤ風の半音階の動きと、ギター伴奏に使われる不協和音の響きに特徴があります。

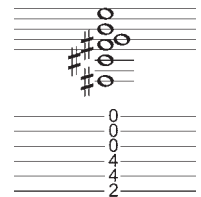
### 音階

ファ#から始まるミの旋法です。



### 和音

主和音はF#のキーで1弦と2弦(時折3弦も)を開放弦で弾かれることがほとんどです(F#, 7, b9, 11)



### リズム

タランタを始めとするカンテス・デ・レバンテの曲種は、基本自由リズムですが、ファンダンゴから生まれた曲種なので、3拍子や6拍子のリズムが根本に流れています。踊りを伴うタラントだけはリズムを大きくとると2拍子のアクセントを持っていますが、細かい拍の奥底には3拍子が流れています。詳しい説明はタラントの欄を見てください。

### ◆ タランタ ◆

もともとタランタ (Taranta) とはアルメリア出身の人を指す言葉だったと言われています。鉱夫の嘆きや日々の生活・悲哀など、暮らし全般のさまざまな内容が歌われます。土着のファンダンゴから生み出されたタランタは、ファンダンゴと同じ自由リズムで歌われ、歌詞は8音節5行詩のキンティージャか6行詩で構成されています。キンティージャの場合は最初に2行目を歌い、その後1行目から5行目まで順に歌われます。(稀に2行目ではなく1行目を繰り返す場合もあります)

音源は片桐勝彦HPで聴けます!

URL <http://www.toshima.ne.jp/~kata/katsu>

同内容のバルマクラス、スタジオロメロで開催中。

2月7、21日、3月7、14日、20:40～終電ぐらゐまで

## ◆ タラント ◆

1940年代にカルメン・アマジャがタランタにはっきりした拍節をつけて踊ったことから出来た曲種です。歌振りはサンブラのリズムに乗せて踊られたので、当初はロンデーニャ・ポル・サンブラと呼ばれていました。ファンダンゴ系のタランタから生まれた8音節5行詩を、大きく2拍子のリズムの中で歌うので長さの伸び縮みが激しく、歌の伴奏は慣れが必要です。

また、歌振り中に数回レマーテ(コンテスタシオン)を入れる特徴があります。レマーテの数は昔は4回が普通でしたが、最近では3番目のレマーテを抜いて全部で3回という振りが多くなりました。

### ワンポイント→踊り・ギター

《歌振り中のレマーテを上手に入れるコツを紹介します》

2016年2月号のファンダンゴ・デ・ウエルバでも説明した通り、ファンダンゴの発展していく際の調性はド・ファ・ド・ソ・ド・ファミ(C-F-G-G7-C-F-E)が一般的です。そしてフラメンコのミの旋法(フリギア旋法)で最後にミ(E)の音に落ちてメロディが終わります。

タラントはファンダンゴ・デ・ウエルバより1音高いファ#(F#)から始まるミの旋法ですが、ファンダンゴの仲間の曲種なので、同じコード進行を辿ります。レ・ソ・レ・ラ・レ・ソ・ファ#(D-G-D-A7-D-G-F#)。タラントのレマーテは1番目のD、2番目のD、その次のA7、そして最後のDのコードの部分に入れます。しかしタラントの旋律の多くは1番目と2番目のDには音が解決していないので、レマーテを入れてDのコードまで持っていかなければなりません。

タラントもタランタ同様5行詩の場合、2行目を二回歌うことが多いので、1番目と2番目のレマーテは2行目の最後の歌詞の後に入れ込みます。旋律やギター伴奏のコード進行のほか、歌詞にも注目するとレマーテの位置がわかりやすくなる場合がありますので、試してみてください。

### 《1番目と2番目のレマーテ》

1番目のレマーテも2番目のレマーテも2行目の後に入れる。

### 《3番目のレマーテ》

3行目の後に入れる。最近このレマーテは省略されることが多い。

### 《4番目のレマーテ》

4行目の歌詞の後に アイと歌う部分。同時でなくても焦らずにレマターしてください。

## ◆ タラントの歌振り ◆

タラントの歌振りは重くゆったりとしたテンポで情感たっぷりに歌われます。緩急や呼吸が非常に大切で、歌中に数度のレマーテを入れることによって、歌と踊り・ギターとの掛け合いのタイミングや呼吸が大切になってきます。ギターによる独特な和音の響きと多用される半音階の旋律の醸し出す感覚は、壮大で陰影のある雰囲気に含まれています。

タランタと同じ8音節5行詩キンティージャの形式で2行目を先に歌ってからそのあと1行目から順に歌います。

### Dónde andaré muchacho

Que hace tres días que no lo veo,  
dónde andaré mi muchacho.  
estará bebiendo vino  
o andaré por ahí borracho  
o alguna mujer lo ha entretenido.

顔を見ずに3日も経つ

私の息子は何処へ行ったのか

ワインを飲んでいるのか

そこらを酔って歩いているのか

誰か女に引き止められたか

Bernarda de Utrera(1927-2009)、El Chocolate(1930-2005)

タラントの1歌に歌われることの多い有名な曲です。バルナダはブレリアのリズムで歌ってます。

### Como la sal al "guisao"

Me está haciendo falta tu querer prima  
que como la sal al "guisao",  
como la ropa al que está en cueros,  
como el agua a los "sembraos",  
que como la mina al minero.

私はあなたの愛が必要です

料理に入れる塩のように

肌に着る服のように

種をまくための水のように

鉱夫にとっての鉱山のように

Juanito Valderrama(1916-2004)、Naranjito de Triana(1933-2002)、Miguel Poveda(1973-)

タラントの2歌で歌われることの多い曲です。フアニート・バルデラマはロンデーニャで歌ってます。ナランヒートの録音が特に有名です。

タラントの踊りは比較的歴史が浅いので、トラディショナルやアンティグアと呼ばれるギターのフレーズから振りつけられたエスコビージャのパターンがたくさん存在します。そのため、リズムの取り方が急に半分(タンゴ)だったり、ブレリアやタンギージョなどが混ざったりする場合も多々あります。タラントの有名なフレーズやファルセータのほか、カルタヘネーラやミネーラ、ムルシアーナなどもいつか取り上げたいと思っています。